

1. 立山町と中部山岳国立公園

- ・万葉の時代より「立山」は、「神々が宿る山」とされ、富士山、白山と並ぶ「日本三霊山」として山岳信仰の対象となっており、「立山信仰」の歴史と文化が育まれた。
- ・明治時代以降、廃仏忌釈の煽りを受け、信仰のための登山から自然を賛美する登山へ移行。
- ・1934年、立山・劔岳を有する標高3,000m級の峰々が連なる「中部山岳国立公園」に指定。
- ・1971年、世界有数の山岳観光ルート「立山黒部アルペンルート」全線開通
- ・2012年、立山弥陀ヶ原・大日平がラムサール条約湿地に登録される
- ・2020年、ゼロカーボンシティを宣言
- ・2023年、地球温暖化防止実行計画策定



みくりが池

2. ゼロカーボンに向けた立山町での取組

① 持続可能な観光の推進

◆「立山黒部アルペンルート」：環境保全への取り組み

- ・マイカー乗り入れ禁止
- ・環境に配慮した乗り物（ハイブリッドバスやトロリーバス等）の採用
- ・観光客へ「ゴミの持ち帰り運動」やアイドリングストップを呼びかけ
- ・地域関係者の協力による外来植物除去活動
- ・余分なゴミを発生させない、ゴミを公園内で燃やさない処理対策

◆（一社）立山町観光協会：CO2を排出しない移動手段の提案

- ・E-BIKE（電動アシスト付きマウンテンバイク）及び電動キックボードの貸し出し



ハイブリッドバス



トロリーバス



外来植物除去活動



E-BIKE

◆登山利用

- ・山小屋事業における太陽光パネルの導入(真砂沢ロッジ等)
- ・活火山の地熱を活用した温泉(みくりが池温泉、雷鳥荘、雷鳥沢ヒュッテ)
床暖房施設(雷鳥荘)
- ・山岳地における環境配慮型公衆トイレの整備(富山県)



雷鳥荘 温泉



公衆トイレ 富山県

② 公共施設の脱炭素化への取り組み

- ・太陽光発電導入(町内全小中学校(小学校6校、中学校1校)、立山町元気交流ステーション、浄水場(上水道管理センター)、白岩浄化センター、立山町総合公園等)
- ・LED照明更新(直営保育所1箇所、公設民営保育所3箇所、小学校4校、中学校1校、町立公民館12箇所、体育館6箇所、その他4箇所)
- ・公用車や町営バスのEV化促進
- ・新築する(仮称)防災センター及び児童館は『ZEB』として整備

(仮称)防災センター及び児童館完成予想図 2024.11完成予定



③ 住民及び福祉生活に再エネを ～自家消費型再エネ推進～

- ・一般家庭へ:太陽光発電導入対策(R4～屋根一体型の太陽光発電設備を導入した場合に固定資産税の減免措置)、高効率給湯器リース導入と併せた補助を実施
- ・特別養護老人ホーム竜ヶ浜荘や町内介護施設へ:高効率空調、高効率給湯及びLED照明更新への支援
- ・平坦地観光の拠点「グリーンパーク吉峰」へ:CO2排出量の削減、浴場用として木質バイオマス(ペレットボイラー)を導入